２０２４年度　学校評価（自己評価・関係者評価）

学校法人帝京大学
帝京大学幼稚園

１・本園の教育目標

自然に囲まれ恵まれた環境の中で、豊かな情操を養い充実した集団生活の中で先生やお友達とのかかわり合いを通して、まず一人立ちできる子供という事を基本に「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域に基づき、“元気で丈夫な子”“素直で優しい子”“人に迷惑をかけない子”を育てることを目標とする。

２・本年度重点課題

１・教育の質の向上
通常保育、特別指導両方において、子どもの日々の学びを積み重ねていける様、見直し改善を図る。
各教職員が子ども達一人ひとりの個性を大切にしながら保育の内容の充実を図れるよう、研修等に積極的に参加をする。

２・安全管理について
緊急事態や感染症の流行時に備えて、訓練を行い、マニュアル等の再確認を行い状況に合わせて臨機応変に対応出来る様に努める。

３・環境設定
各年齢の幼児の発達に沿って学びの充実に繋がるよう、環境構成を行う。
保育にもICTツールを活用し更に保育環境の充実を図る。

３・評価項目の達成及び取り組む目標・計画

	評価目標	評価	取り組み状況・結果
1	**教育の質向上** ・通常保育、特別指導両方において、子どもの日々の学びを積み重ねていける様、見直し改善を図る。 （全体）	A	・各学年の代表者が製作あそびの内容などを形にして持ち寄り話し合いをする機会を設け、忌憚ない意見交換により学年のバランスを取る事が出来た。 ・教育活動の中での学びや気づきを、他の活動に生かしていけるよう学年で話し合いながら、必要があればその都度改善しながら進める事が出来た事により、日々の学びの積み重ねに繋がった。 ・前年度までの活動記録を参考にしながら子どもたちの興味関心を大切にし、必要な経験と感じた内容を保育の中に積極的に取り入れた事で、今年度の子どもたちの姿に見合った保育計画を立てる事が出来た。
	（表現活動・すくわくプログラム）		・自己表現の楽しさを味わえる様、絵本の世界観をイメージし、身近な動物の真似や音に合わせて体を動かすなどの表現遊びを行ない、日々の表現遊びの楽しさや学びに繋げる事ができた。 ・子どもたちの興味や関心を主体的・協働的な探究活動として実践するにあたり、年長組では絵本を基に、自分たちが日常使

	・各教職員が子ども達一人ひとりの個性を大切にしながら保育内容の充実を図れるよう、研修等に積極的に参加をする。		っている言葉に着目するところから、紙芝居をつくる活動を行った。こうした活動により、自分たちの考えを表現し発表する意欲へと繋がり、発表会活動では、絵本の続きの話を想像し、オリジナルストーリー作りに発展し、子どもたちの発想力豊かなアイディアが生まれ、物語（設定や台詞も含めて）を作ることの楽しさを味わうことができた。特に、相手がいる場面では、相手がどんな感情なのか、自分はどんな気持ちなのかを考えながら台詞を決めていき、実際に演じる時も感情を込めて演じることを楽しみ、自分たちで考えた登場人物が生き生きと表現された劇ごっことなった。 ・受講した研修により心身の発達や信頼関係の土台となる乳幼児期と同様に、保育者がひとりひとりの個性を理解した上で関わり、的確な環境設定を行うことは、幼児期の成長過程でも重要であるということを実感した。その他、安心安全な環境設定に関する研修や全ての子どもに通ずるインクルーシブ保育の研修等にも参加をした。研修内容は他の職員と共有し、日々の保育に活かせるよう努めた。今後も保育の充実に加えて、時代の変化にも対応出来るよう、常に学びの姿勢を持ち続けたい。 ・他園の発表会を見学し、園によってさまざまな表現方法があることを知った。見学を通しての学びを、来年度の参考にしていきたい。 ・常に教育に関する情報及び環境は変化していく為、今後も意欲的に研修に参加することが必要だと感じる。
2	**安全管理について** ・緊急事態や感染症の流行時に備えて、訓練を行い、マニュアル等の再確認を行い状況に合わせて臨機応変に対応出来る様に努める。	A	・今年度も上級救命技能認定を受けた職員を講師とし、AED の使い方、喉に物を詰めた時の対処法等の研修を行った。不審者侵入時の緊急対応等も職員間で様々な状況を想定し訓練を行った。 ・不測の事態に備えた避難訓練をする際、その都度設定や避難場所を変えて行った。様々な状況を想定して行うことによって得た、新たな気付きを職員間で話し合い、次の訓練に繋げるというサイクルが出来てきたと感じている。 ・感染症対策に関しても子ども達に手洗いやうがいの大切さを伝え、園内では子ども達がよく触れるドアや窓の消毒をし対策を行う事が出来た。
3	**環境設定** ・各年齢の要人発達に沿って学びの充実に繋がるよう、環境構成を行う。	B	・人的環境の一員でもある保育者が常に子どもたちの目線で環境構成を行い、子どもたちの成長や興味・関心の変化に応じて、見直しと改善を心掛けた。例年通りではなく、それぞれの学年の現状や集団としての傾向を見極め、子どもたちが主体的な行動から学びを得られるよう、環境構成の工夫を行った。 ・子ども達が自分で園生活、活動を主体的に楽しめる様、遊びの中でエリア分けをし、配置替え等工夫をするように心がけた事

	・保育にもICTツールを活用し更に保育環境の充実を図る。		で、子ども達が思い思いに遊びを発展させる姿が見られた。今後も新しい遊び方を展開できるようにしていきたい。 ・子どもたちが行事に関する取り組みを行う際に、ICTツールで自分たちの姿を客観視することで、活動内容に対する理解が深められた。年長児のクラスでは、発表会の劇ごっこの中でも動画を活用する新たな試みが行われた。記録用としてとしての活用が大部分を占めているので、今後、教育活動での活用の幅を広げられるよう努めていきたい。 ・保育の様子を記録し、保育環境の充実・向上を図るために、職員間での振り返り等に使用した。今後はプロジェクター等も使用し、子ども達の活動が広がる様にしていきたい。

評価（A：十分に成果があった　B：成果があった　C：少し成果があった　D：成果がなかった）

４・総合的な評価結果

今年度「教育の質向上」「安全管理について」「環境設定」の３つの評価目標を重点的に行った結果、教育の質向上については、職員が連携を取りつつ取り組んだ結果、内容の充実、成果が見られた。園児の安全管理については、職員間で連携を取りつつ様々な状況を想定しての訓練を行い、子ども達にも伝える事が出来、成果があったと思われる。また、環境設定においては、保育活動にも年長組を中心にICTを積極的に活用して一定の成果が見られた。今後も子どもたちの学びに繋がるよう務め、課題が見られた部分については、改善し引き続き内容の向上に努める。

５・今後取り組む課題

	課　題	具体的な取り組み方法
1	教育課程・指導	幼児が意欲的かつ主体的に遊び（活動）を進めるための環境の構成を行い、継続的な探究活動を行う。 自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育を行う。
2	保健管理	健康に関する幼児の意識を高める指導の工夫を行う。 子ども達にとって分かりやすい指導を年齢に合わせて行う。
3	研修	園内外での保育環境向上の為の研修に参加。研修で得た学びの共有

６・学校関係者評価委員会の評価と今後について

今年度の子ども達に見合った保育計画を立て、子ども達の様子を見ながら都度改善し、より良い教育活動が行えるように尽力されていて、子ども達もそれぞれがとても大きく成長した様に感じる。季節ごとの行事やイベントを通じて子ども達が楽しみながら学べる機会が多く、子ども達が楽しそうに話しをする様子からもうかがえた。教育の質向上（表現活動等）については、発表会の取り組み等を通して子ども達の興味関心を主体的・協働的な探究活動へと発展させている事がとても良く伝わった。友達と一緒に活動をすることを通して最後まで頑張る力が身につき、また協調性や思いやりの気持ちが育っていると感じる。安全管理についても登降園時の安全確認の徹底や緊急時対応研修•防災訓練•不審者対応訓練などの実施状況からも緊急時に備えて安全管理がなされている事が伺えた。環境設定の部分では子ども達がすすんで園生活、活動を楽しめる様環境を整え遊びの工夫がなされていると感じた。また、避難訓練では保護者にも協力して行う事も良いのではないか。ＩＣＴを今後より活用していく事を望まれる意見もあった。今後も子ども達が安心して登園し、集団生活を通して学びに繋がる活動を行い、子ども達の心と体を育み豊かな園生活がおくれる様に努めていきたい。

2024（令和 6）年度とうきょう すくわくプログラム活動報告書

学校法人帝京大学　帝京大学幼稚園

１．活動のテーマ

<テーマ>

絵本の世界からはじまる表現あそび

<テーマの設定理由>

日頃より子どもたちが楽しんでいるごっこ遊びやうたの振り付けにスポットをあて、言葉や物語の内容に関心を深め表現活動を行うと共に他者の思いに気付いたり共感する心の成長に繋げるため。

２．活動スケジュール

＜年長＞

・6 月～7 月：絵本を通して日頃使っている言葉に注目し、同じ意味でも選ぶ言葉によっては、相手への伝わり方が違うことに気付き、ことばの変換に取り組んだ。

・9 月～12 月：紙芝居の裏側の仕組みを理解した後、保育者が作った紙芝居の場面に合わせてグループごとに話しを考え、完成した紙芝居を発表し合った。劇ごっこの題材を子どもたちと決めて、意見を出し合いオリジナルストーリーを考えた。子どもたちの意見をまとめ、劇ごっこの台本にし、役ごとのグループで台詞や身体表現、衣装のアイディアをあげ、話し合いを重ねながら一つの物語をつくり上げた。

・1 月～2 月：劇ごっこを通じて楽しんだ大道具や小道具、衣装づくりをもとに物語の場面や自分が演じた登場人物を様々な素材を使い、制作活動でも表現した。

＜年中＞

・9 月：日頃より行っている読み聞かせの後、子どもたちと物語についての振り返りを重点的に行った。

・10 月：子どもたちが興味を持った絵本を題材として劇ごっこを行う際に、物語の中のどの動物になりたいかをそれぞれが選び、動物ごとのグループをつくった。グループごとに物語や音楽に合わせた身体表現、衣装について考えた。

・11 月～12 月：グループで決めた身体表現あそびから劇ごっこへとつなげた。

・1 月～2 月：劇ごっこの中の場面を選び絵画や制作で物語の世界を表現した。

＜年少＞

・9 月～10 月：絵本を繰り返し読み登場人物の言葉を声に出して表現したり、動物になりきって身体表現をする活動を保育に取り入れた。子どもたちが気に入った物語の音楽劇に登場する人物や動物の中から興味を持った役を選び役ごとのグループをつくった。

・11 月～12 月：物語の世界観や登場する人や動物をイメージし表現しやすくするために、グループごとに身に付けるものや話の中に出てくるものをつくって劇ごっこの活動を行った。

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

○準備した素材・道具

絵本・紙芝居・図鑑・絵の具・筆・カラーポリ袋・画用紙・テープ類・梱包材・ダンボール・iPad・デジタルカメラ・スピーカー

○環境設定

・子どもたちの考えをその都度、付箋に書いて残せるように掲示板を用意した。

・日頃よりグループ内で発言をしたり、他者の考えを聞きまとめるという機会を積み重ねた。

○子どもの姿・声・子ども同士や教諭との関り

・言葉探しや言葉の変換→紙芝居づくり→オリジナルストーリーづくり→劇ごっこと段階を踏んだことで一つひとつの活動が理解しやすく活発に発言する姿があった。

・劇ごっこではグループで意見を出し合いオリジナルストーリー・登場人物・台詞・衣装を考える過程において、友だちのアイディアに共感したり、協力して一つのものをつくるという経験から仲間意識が強くなった。

・劇ごっこの活動を重ねるにつれ、イメージした物語の世界を形にしたいという意欲が増し、子どもたちから必要な素材や道具の要望が聞かれた。

４．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・劇ごっこでは、身体表現や言葉での表現に積極的な子に加え、制作活動による表現を好む子が楽しむ様子が見られた。子どもたちの興味、関心はそれぞれのタイミングやきっかけにより大人の予測を超えるものだという事を踏まえ、活動の幅を保育者が狭めてしまったりすることのないよう今後も意識していきたい。
・子どもたちの主体的な探究活動や活動の展開を保育者も一緒に楽しむと共に、必要に応じた提案が出来るように保育者自身の探究心も必須であると感じている。